

映画芸術の振興

昭和63年7月

文化庁文化部芸術課

映画芸術の振興について〔中間とりまとめ〕

映画芸術の振興について〔中間とりまとめ〕

63. 7. 4

1. 映画の現状と問題

2. 映画芸術振興の課題
 - (1) 優れた映画の製作と人材の養成
 - (2) 鑑賞機会の確保
 - (3) 映画の国際交流
 - (4) フィルムセンターの充実

1. 映画の現状と問題

映画は写真フィルムによる画像の記録と投影という科学的方法から生まれた新しい表現物として、およそ百年の歴史の中でめざましく発展し変化した。この間、映画は映像芸術として独自の地位を確立するとともに、同一作品が多数のプリントによって各地で同時に上映できるという形態から広く大衆に浸透し、一つの産業として発展した。

このような優れた特性を持つ映画は我が国に導入されて以来、戦前戦後を通じ、大衆の身近な娯楽として国民の生活の中に定着するとともに、多くの優れた芸術作品を生み出して現代日本文化の一翼を担ってきた。また、優秀な外国映画の輸入は、国際理解の増進と我が国映画の質的向上に大きく貢献してきた。

しかし、昭和30年代半ば以降はテレビの急速な普及をはじめ、ビデオその他の新しい映像メディアの出現により、また余暇利用や娯楽手段の多様化などに影響されて、映画は興行面から不振に見舞われた。

戦後の我が国における映画館入場者数は、昭和33年の11億2,745万人を頂点としてその後下降線をたどり、昭和62年は1億4,390万人で最盛期の12.8%に減少した。これは、国民一人当たりの劇場映画鑑賞回数が、昭和33年の1.23回から、昭和62年には1.2回に激減したことを意味する。このことは当然全国の映画館数に反映し、昭和35年の7,457館を頂点として漸次減少し、昭和62年には2,053館にまで落ち込んでいる。

このような長期にわたる映画観客の漸減、映画興行の不振は、映画産業全般の衰退を招き、かつて映画製作の中心であった大手映画会社は、製作費の切り詰め、自主製作の削減と独立プロ作品買い上げへの切替えなどの対策を講じてきた。このことから実際の映画製作は独立プロダクションの手に委ねられる傾向が強まり、全体としての日本映画の製作本数も減少している。映画製作本数で見ると昭和30年423本、昭和35年547本と毎年500本前後の映画が封切られ、その殆どが大手映画会社によって製作されてきたが、昭和37年に400本を切る急激な減少を見せて以来漸次減少し、昭和50年333本、昭和60年319本と最盛期に比

べ約40%減となっている。

このような映画の現状は、映画製作の安定的基盤の崩壊、才能ある映画人の能力発揮の機会の減少、また、大手映画会社による人材養成機能の弱体化がもたらした後継者養成の困難等映画芸術の創作現場に深刻な問題をもたらすとともに、国民の優れた映画鑑賞の機会の確保という点でも様々な困難を生ぜしめている。

一方、テレビ、ビデオの著しい普及をはじめ、その後の多様な映像メディアの登場で映像はより広く、より深く国民の間に浸透している。確かに映画館で映画を鑑賞する観客は減少しているが、これら映像メディアによる映画の鑑賞機会は増大しており、映像芸術の中心として映画の重要性は一層高まっていると云うことができる。

さらに、ハイビジョンなど映像メディアは今後ますます発展、多様化し、それによる映像表現は多彩になることが見込まれるが、映画が生み出し、継承してきた創作技術は映像表現の基本とも言えるものであり、映画の水準の低下は、映像芸術全般に悪影響を及ぼすことになろう。映画芸術の振興は、ひろく映像文化の向上に深くかかわっているのである。

以上のような映画の歩んできた歴史と近年における映像メディアの進展の中で映画の果たす役割に留意しつつ、我が国の映画芸術が直面している問題についてそれを克服するための努力をすることが、今日、極めて重要であると考える。

2. 映画芸術振興の課題

映画が広く国民の芸術・娯楽としてその文化的役割を果たすための方策は、集約すれば二つのことを目標とするものである。その一つは優れた映画の製作を活発化することであり、他の一つは優れた映画がより広く、より深く鑑賞理解される道をひらくことである。

我が国における映画芸術振興のためには、次の諸点を中心として映画界はもと

より関係各方面における積極的な対応と施策の推進が必要である。

(1) 優れた映画の製作と人材の養成

優れた映画の製作を促進することが映画芸術の振興を図るうえで何よりも重要であり、映画製作関係者の創作への意欲を喚起し、その実現を助長する必要がある。

テレビ、ビデオ等による鑑賞の著しい普及等を総合的に考慮すれば映画は産業としても新しい発展の可能性が期待されるものであり、大手映画会社をはじめ、映画製作関係者等が、このことも視野に入れつつ、優れた映画の製作に意欲を燃やし活力を取り戻すことが切望される。才能豊かな映画人がその持てる能力を十分に発揮して映画の製作に取り組めるようになることが望ましい姿であろう。我が国映画界がおかれている現状の中で映画芸術の振興を図る一助として、現在行われている優秀映画製作奨励制度について、より一層の工夫と充実を図ることにより製作スタッフの創作意欲を高めることも必要であろう。近年いわゆるジョイント方式やそれまで映画には無関係であった企業が製作に参画するなど資金源は多様化しており、これらにより優れた映画が製作される例も少なくない。しかし、新人の作品など野心的な作品の製作は困難な状況にあり、広く脚本募集を行って優秀作品を表彰しその映画化のための道がひらけるようにするなど、それが容易となるような適切な方途について検討してみることも必要であろう。

監督、プロデューサー、脚本家、俳優、カメラマン、美術、録音、編集など映画は多様な才能と技術をもつ人々によって製作される。これら映画製作に関わる映画人は実際の映画製作を通じて養成されてきたものであり、映画製作が活発に行われることは映画人養成という点でも基本的に重要である。同時に、欧米諸国において映画芸術を担うハイタレントを養成するため、映画製作に即した系統的、実践的な教育研究を行う機関が設けられ、それぞれ重要な役割を果たしていることに鑑み、我が国においても、テレビ等映画関係の他分野との連携を視野に入れつつこの種の機関を高度の専門学校あるいは大学院レベルの教育研究機関として創設することも有意義であろう。その場合、映画人の現職

教育にも役立ち得るような実験スタジオを有する映画研究所的な研修施設を設け、これを大学の修士課程として位置づけることも検討に値しよう。

また、諸外国の映画製作技術等の吸収や我が国の映画界が有する名人芸的技術の伝承も重要であり、芸術家在外研修制度の積極的活用を促進するなど海外における研修の機会を確保するとともに、国内においても例えば芸術家国内研修制度の活用等により一定期間研修できるようにすることも考えられよう。

(2) 鑑賞機会の確保

東京などでは映画館の小劇場化、高級化という新たな傾向が見られる一方、いわゆる名画座が配給システムの関係などから閉館に追い込まれる例が見られ、地方では県庁所在地等大都市以外では映画館の多くが姿を消してしまった。また、現在では殆ど全国同時封切で1か月程度で打ち切りというシステムが一般的となり番組が画一化する傾向にある。さらに、洋画についてはヒット作等興行ベースに乗るもの以外の良心的な作品の輸入される機会は少なく、たとえ輸入されても東京以外での鑑賞機会は少ない。

このように、国民が優れた映画を鑑賞する機会が著しく狭められており、これが映画ファンを減少させているとも言えよう。配給、興行などの関係方面においてこのような状況改善のために工夫、努力がなされることが強く望まれる。

同時に、例えば、良心的な芸術性の高い映画で一般の映画館での上映が困難なものなどについて関係者の理解、協力を得つつ公立文化施設等が定期的に公開上映事業を行うことも大きな意義があろう。その際、東京国立近代美術館フィルムセンターが自らの上映事業を積極的に展開するとともに公立文化施設等に連携協力し、その円滑な事業の実施に貢献することが望ましく、そのための条件整備を進めることが必要となろう。

外国ではシネ・クラブとかフィルム・ソサエティと言われる映画の鑑賞組織があり、一般の商業映画館では上映されない作品を自主的に上映し、鑑賞している。我が国においても上記の鑑賞会を通じてシネ・クラブに相当するような組織が生まれ育っていくことも期待される。

(3) 映画の国際交流

映画は、国民生活に深く根ざした大衆性と映像芸術としての具体的描写から、芸術のみならず広く文化面での国際交流に極めて大きな貢献をしてきた。

昭和26年ベネチア国際映画祭に参加した「羅生門」はグランプリを受賞して日本の文化へ欧米の関心をひきつける契機となり、その後も国際映画祭における日本映画の受賞等は我が国文化の海外への紹介に大きな役割を果たしてきている。同時に国際映画祭への日本映画の参加は、映画芸術の振興の観点からも極めて意義のあるものであり、今後とも各方面における積極的な努力が望まれる。このような国際映画祭での実績にも拘らず日本映画の海外における商業ベースでの上映は他の先進国に比べまだまだ少ないのが現状であり、その拡大は大きな課題である。

一方、我が国においても関係者の努力により東京国際映画祭が実現し、昨年秋第2回が行われたが、今後映画芸術振興の立場から、例えば映画の理解と研究の進展に国際的に貢献するようなシンポジウムの開催や、特定のテーマによる作品特集の実施など我が国の映画芸術を紹介するための機会の確保について検討すべきである。

さらに、欧米諸国のみならず近隣アジア諸国等広く世界各国との映画芸術の分野における交流を今後一層積極的に推進することが必要であり、映画製作に携わる人々や作品の交流を進め、これらの国々の作品の我が国における上映機会の確保にも努力すべきである。世界各国の新鮮で優れた作品は、我が国の映画界に有意義な刺激を与えてくれるであろう。

(4) フィルムセンターの充実

映画史上の優れた作品は当時の時代を代表する文化的所産として文化的にも貴重な価値を持つものであり、それらを系統的に収集、保存し、効果的に活用することは映画芸術の振興を図る上で、極めて重要である。

我が国においては、東京国立近代美術館にフィルムセンターが設けられ、フィルムアーカイブとしてフィルムの収集、保存に努めるとともに、名画鑑賞の機会提供、調査研究等の事業を行っている。

現在、フィルムセンターが収集、保存しているフィルムは日本映画、外国映画併せて約9,500本であるが、このうち、長編の日本劇映画についてみると全部で約1,300本である。これまでに我が国では約16,500本の長編劇映画が作られていると推定されるので、フィルムセンターが保存しているのは、全体の8%弱に過ぎない。可燃性のネガフィルムが使われていた昭和33年以前の作品はネガ自体失われているものが多いと言われ、むずかしい面も多々あるが、民間映画会社特に独立プロダクションによるフィルムの永久的な保存は極めて困難であり、フィルムセンターにおける収集、保存の一層の充実が必要である。その際、映画会社等からの協力や民間資金の活用なども考え、幅広い視野から資料的価値を考慮してできるだけ数多くのものを保存することが望ましい。この場合、美術館が行っている寄託制度を映画会社等所有のフィルムについても適用することを検討すべきであろう。

また、ネガフィルムの保存についても必要に応じ行うことを検討すべきであり、更に、映画の骨格をなすシナリオやコンテなどの製作資料、作者等に関するデータ、ポスター、スチル写真などの収集、保存も考える必要がある。

次に、フィルムセンターの重要な機能である優れた作品の鑑賞機会の提供については、充実した鑑賞を推進する観点から上映用フィルムの整備を計画的に進め、広い視野から番組を編成するなどして公開上映事業を強化するとともに、前述したように地方の公立文化施設等との連携協力による上映事業の実施を検討すべきである。なお、フィルムセンターの公開上映事業は建て替えが予定されている建物の完成により格段の充実が期待されるが、その際、商業的理由で公開の機会に恵まれない優秀作品の上映についても適切な方法で配慮することが望ましい。

このほか、保存している作品の利用を容易にするビデオの活用等も研究者や映画製作関係者にとって極めて有意義であろう。

以上のようにフィルムセンターが映画芸術の振興に果たすべき役割は大きく、我が国の映画芸術の拠点としてのあり方について検討するとともにその一層の充実を図ることが必要である。

映画芸術の振興に関する懇談会メンバー

(50 音順、※印は座長)

氏 名	現 職
五十嵐 治 也	筑波大学副学長
犬 丸 直	東京国立近代美術館長
加 藤 秀 俊	放送教育開発センター所長
川喜多 かしこ	(財)川喜多記念映画文化財団理事長
草 壁 久四郎	映画評論家
品 田 雄 吉	映画評論家
鈴 木 進	(社)日本映画製作者連盟常務理事
※登 川 直 樹	映画評論家

参 考 資 料

1. 映画芸術の振興に関する調査研究の実施について
2. 映画芸術の振興に関する懇談会審議経過
3. 映画館入場者数とテレビ受信契約数の推移
4. 我が国における映画製作本数の推移（封切本数）
5. 我が国における映画館数の推移
6. 文化庁優秀映画製作奨励金交付作品一覧
7. 文化庁こども向けテレビ用優秀映画製作奨励金交付作品一覧
8. 映画関係人材養成機関
9. 主な国際映画祭における邦画作品賞受賞一覧
10. 世界の主な映画祭

1. 映画芸術の振興に関する調査研究の実施について

昭和62年5月14日

文化庁長官裁定

1. 趣 旨

今日の我が国の映画芸術の現状について把握し、その問題点を明らかにするとともに、映画芸術の一層の振興を図るための方途について調査研究する。

2. 調査研究事項

- (1) 映画芸術の現状と当面する諸問題について
- (2) 映画芸術振興のための方途について
- (3) その他必要な事項

3. 実施方法

- (1) 別紙の学識経験者の協力を得て、2に掲げる事項について、調査研究を行う。
- (2) 必要に応じ、別紙以外の者にも、協力を求めることができる。

4. 実施期間

昭和62年5月14日から、昭和64年3月31日までとする。

5. その他

この調査研究に関する庶務は、関係課及び東京国立近代美術館（フィルムセンター）の協力を得て文化庁芸術課において処理する。

映画芸術の振興に関する懇談会メンバー

(50 音順)

(氏 名)

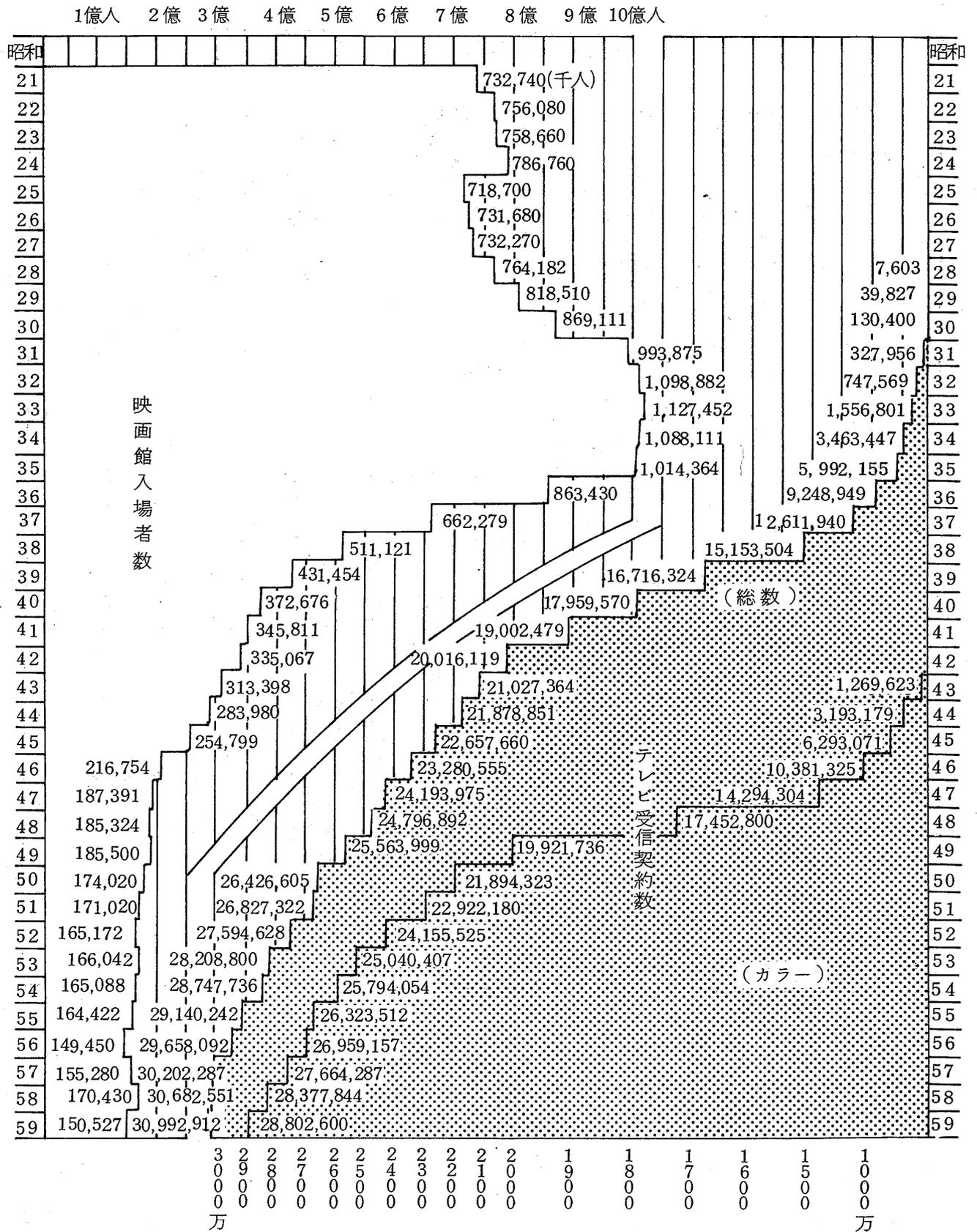
(現 職)

五十嵐 治 也	筑波大学副学長
犬 丸 直	東京国立近代美術館長
加 藤 秀 俊	放送教育開発センター所長
川喜多 かしこ	(財)川喜多記念映画文化財団理事長
草 壁 久 四 郎	映画評論家
品 田 雄 吉	映画評論家
鈴 木 進	(社)日本映画製作者連盟常務理事
登 川 直 樹	映画評論家

2. 映画芸術の振興に関する懇談会審議経過

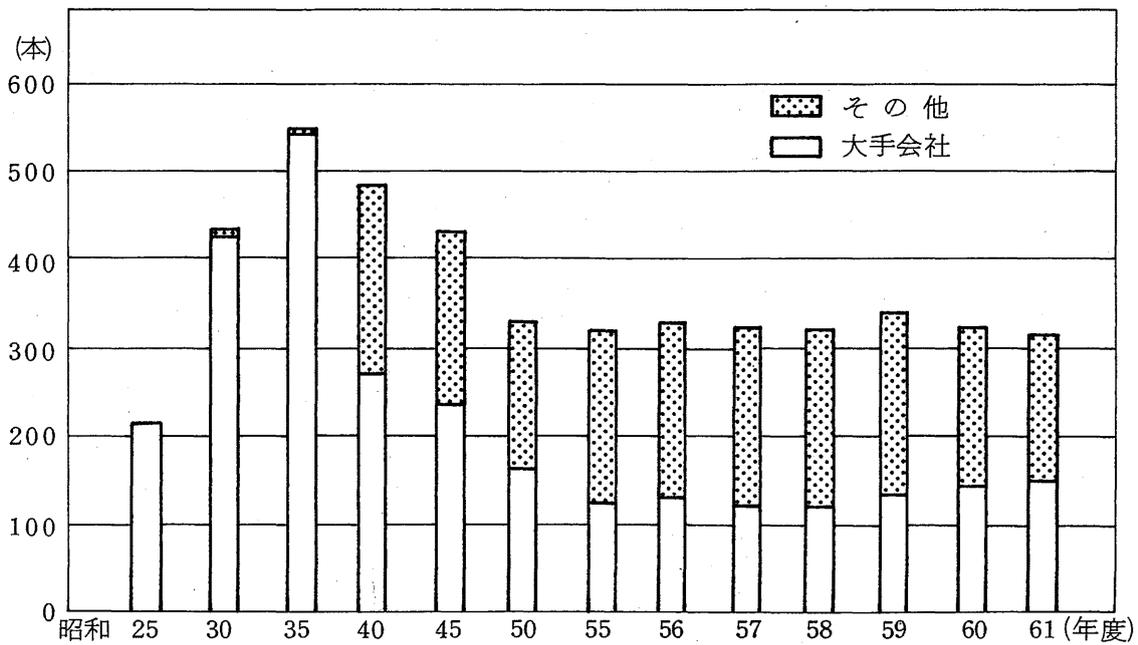
	開催日	主な検討事項
1	昭和62年6月2日	我が国における映画の現状
2	7月1日	諸外国における映画の状況
3	7月29日	「映画」の有する芸術的意義
4	9月22日	映画関係人材の養成
5	10月20日	”
6	11月24日	我が国映画産業の現況と展望
7	昭和63年1月26日	鑑賞機会の確保と国際交流
8	2月9日	映像技術の進歩と映画の保存活用
9	3月7日	製作機会の確保
10	3月29日	映画関係者意見聴取 大島 渚 (協)日本映画監督協会理事 新藤 兼人 (協)日本シナリオ協会理事 高村倉太郎 (協)日本映画撮影監督協会理事
11	4月22日	” 山田 耕大 プロデューサー 大森 一樹 監督 荒井 晴彦 脚本家
12	5月9日	” 河野 勝雄 全国興行環境衛生同業組合連合会 会長 鈴木 常承 東映株式会社常務取締役 長部日出雄 作家
13	5月27日	「中間とりまとめ」について
14	6月30日	”

3. 映画館入場者数とテレビ受信契約数の推移



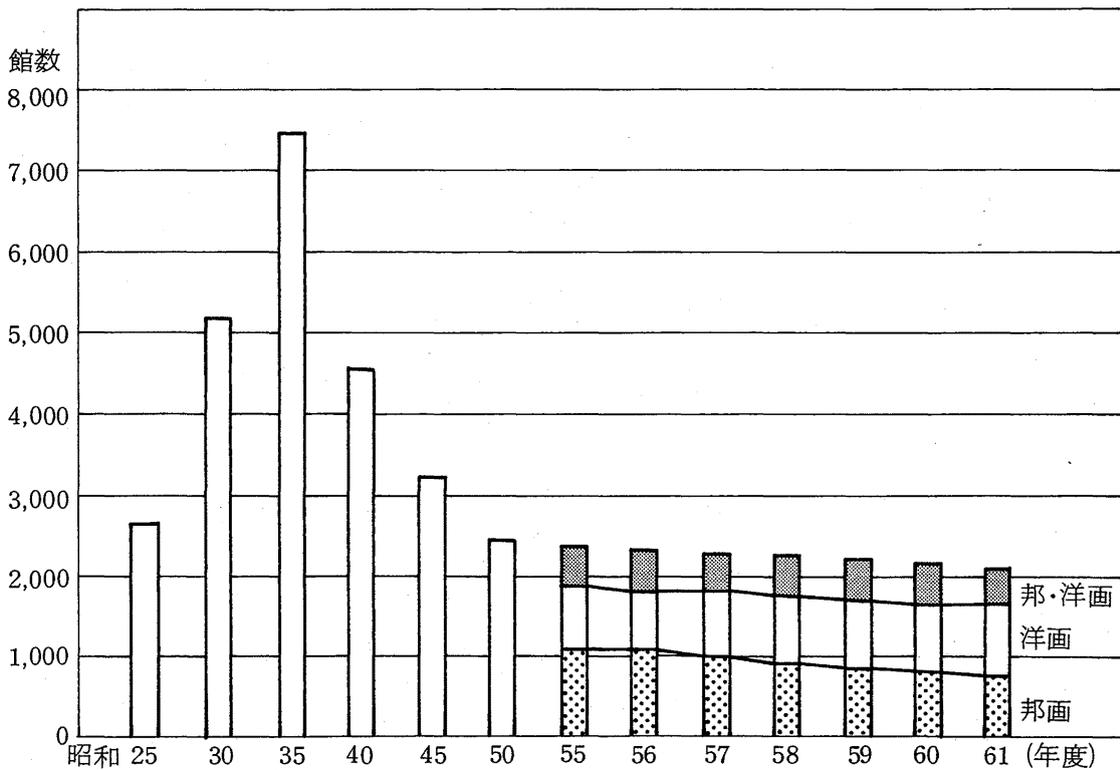
キネマ旬報 1986 増刊号による。

4. 我が国における映画製作本数の推移（封切本数）



(社) 日本映画製作者連盟資料による。

5. 我が国における映画館数の推移



(社) 日本映画製作者連盟資料による。

6. 文化庁優秀映画製作

年度	交		付		
47	夏の妹 (創造社、日本アート・シアター・ギルド)	忍ぶ川 (俳優座映画放送、東宝)	軍旗はためく下に (新生映画社、東宝)	海軍特別年少兵 (東宝映画)	旅の重さ (松竹)
48	股旅 (嵐プロダクション、日本アート・シアター・ギルド)	忍ぶ糸(第1部、第2部) (東宝映画・俳優座映画放送)	戦争と人間(完結篇) (日活)	心 (近代映画協会、日本アート・シアター・ギルド)	朝やけの詩 (東宝、俳優座映画放送)
49	卑弥呼 (表現社、日本アート・シアター・ギルド)	襤褸の旗―足尾鉍毒事件と田中正造―(映画「襤褸の旗」製作委員会)	三婆 (東京映画)	竜馬暗殺 (映画同人社、日本アート・シアター・ギルド)	わが道 (近代映画協会)
50	再会 (松竹)	ある映画監督の生涯 (近代映画協会)	桜の森の満開の下 (芸苑社)	昭和枯れすすぎ (松竹)	アフリカの鳥 (日活)
51	大地の子守歌 (行動社、木村プロダクション)	金閣寺 (日本アート・シアター・ギルド、こうしょう)	男はつらいよ―寅次郎夕焼け小焼け―(松竹)	犬神家の一族 (角川春樹事務所)	四年三組のはた (日活)
52	青春の門 自立篇 (東宝)	竹山ひとり旅 (近代映画協会、プロダクションジャン・ジャン)	世界名作童話 白鳥の王子 (東映動画)	悪魔の手毬唄 (東宝)	八甲田山 (橋本プロダクション、東宝映画、信濃企画)
53	〈分校日記〉イーハトーブの赤い屋根(映画「分校日記」プロダクション)	サード (幻燈社、日本アート・シアター・ギルド)	曾根崎心中(行動社、木村プロダクション、日本アート・シアター・ギルド)	白き氷河の果てに(北斗映画プロダクション)	事件 (松竹)
54	俺たちの交響楽 (松竹)	龍の子太郎 (東映動画)	あゝ野麦峠 (新日本動画)	衝動殺人 息子よ (松竹、東京放送)	月山 (権の会、鐵プロダクション、俳優座映画放送)

奨励金交付作品一覧

作 品				
故郷 (松竹)	賛歌 (近代映画協会、日本アート・シアター・ギルド)	恍惚の人 (芸苑社)	男はつらいよ・寅次郎夢枕 (松竹)	青幻記 (青幻記プロダクション)
塩狩峠 (松竹)	男はつらいよ・私の寅さん (松竹)	津軽じょんがら節 (斎藤耕一プロダクション、日本アート・シアター・ギルド)	日本沈没 (東宝映画、東宝映像)	ねむの木の詩 (宮城まり子)
太陽の詩 (現代ぷろだくしょん)	砂の器 (松竹、橋本プロダクション)	あさき夢みし (中世プロダクション、日本アート・シアター・ギルド)	サンダカン八番娼館 望郷 (東宝、俳優座映画放送)	教室205号 (青銅プロダクション)
男はつらいよ―寅次郎相合い傘― (松竹)	鬼の詩 (日本アート・シアター・ギルド、鐵プロダクション)	化石 (俳優座映画放送、四騎の会)	同胞 (松竹)	祭りの準備 (綜映社、日本アート・シアター・ギルド)
ふたりのイーダ (「ふたりのイーダ」プロダクション)	あにいもうと (東宝映画)	チェチェメニ号の冒険 (北斗映画プロダクション)	アラスカ物語 (東京映画)	ねむの木の詩がきこえる (宮城まり子)
男はつらいよ―寅次郎と殿様― (松竹)	先生のつうしんぼ (日活)	幸福の黄色いハンカチ (松竹)	はなれ瞽女おりん (表現社)	春男の翔んだ空 (現代ぷろだくしょん)
冬の華 (東映)	帰らざる日々 (にっかつ)	翼は心につけて (翼プロダクション)	鬼畜 (松竹)	子育てごっこ (五月舎、俳優座映画放送)
英霊たちの応援歌 (東京12チャンネル)	さよならの日日 (オフィス山田企画)	神様のくれた赤ん坊 (松竹)	天平の薨 (「天平の薨」製作委員会)	虹をかける子どもたち (宮城まり子)

年度	交				付
55	遙かなる山の呼び声 (松竹)	影武者 (東宝映画、黒澤プロダクション)	看護婦のオヤジが んばる (近代映画協会)	復活の日 (角川春樹事務所)	アフリカ物語 (サンリオ)
56	シリウスの伝説 (サンリオ)	連合艦隊 (東宝映画)	北斎漫画 (松竹)	マタギ (青銅プロダクション)	典子は、今 (キネマ東京、シ ンパタ・フィルム・ プロモーション)
57	象のいない動物園 (グループ・タック、 ヘラルド・エンター プライズ)	長編美術映画 プ ラド美術館 絵は 語る (ホリ企画製作)	早池峰の賦 (工藤 充)	未完の対局 (東光徳間)	疑惑 (松竹)
58	楡山節考 (東映、今村プロ ダクション)	細雪 (東宝)	家族ゲーム(につ かつ、ニュー・セ ンチュリー・プロ デューサーズ、日 本アート・シター ー・ギルド)	この子を残して (松竹、ホリ企画 製作)	南極物語 (フジテレビジ ョン、学習研究社、 蔵原プロダクシ ョン)
59	地平線 (丸源)	風の谷のナウシカ (徳間書店、博報 堂)	さらば箱舟(劇団 ひまわり、人力飛 行機舎、寺山プロ ダクション、日本 アート・シター ー・ギルド)	瀬戸内少年野球団 (Youの会、ヘラ ルド・エース)	麻雀放浪記 (角川春樹事務所、 東映)
60	さびしんぼう (東宝)	乱 (ヘラルド・エ ース)	AKIKO ーあるダンサーの 肖像ー (自由工房)	銀河鉄道の夜 (グループ・タッ ク、ヘラルド・エ ース)	ビルマの堅琴 (フジテレビジ ョン、博報堂、キネ マ東京)
61	鍵の権三 (松竹、表現社)	火宅の人 (東映)	痴呆性老人の世界 (岩波映画製作所)	新喜びも悲しみも 幾歳月 (松竹、東京放送、 博報堂)	天空の城ラピュタ (徳間書店)
62	夜汽車 (東映)	映画女優 (東宝映画)	マルサの女 (伊丹プロダクシ ョン)	イタズー熊ー (こぶしプロダク ション、東映)	次郎物語 (荒木事務所、学 習研究社、キネマ 東京、西友)

作					品				
男はつらいよー寅 次郎ハイビスカス の花ー (松竹)	古都 (ホリ企画制作)	ヒボクラテスたち (シネマハウト、 日本アート・シタ ー・ギルド)	震える舌 (松竹)	泥の河 (木村プロダクシ ョン)					
幸福 (フォーライフレ コード)	迅雷(につかつ撮 影所、ニュー・セ ンチュリー・プロ デューサーズ、日 本アート・シター ー・ギルド)	教育は死なずー乗 立ちのときー (翼プロダクショ ン、長野映研)	駅 STATION (東宝映画)	曾根崎心中 (栗崎事務所)					
誘拐報道 (東映、日本テレ ビ放送網)	蒲田行進曲 (松竹)	遠野物語(岩手放 送、鐵プロダクシ ョン、麻布企画、 俳優座映画放送)	ふるさと (こぶしプロダク ション)	男はつらいよ 花も 嵐も寅次郎 (松竹)					
魚影の群れ (松竹)	居酒屋兆治 (田中プロモーシ ョン、東宝)	薩摩盲僧琵琶 (岩波映画製作所)	海と太陽と子ども たち (中山映画)	序の舞 (東映)					
おはん (東宝映画)	お葬式(ニュー・ センチュリー・ブ ロデューサーズ、 伊丹プロダクシ ョン)	伽椰子のために (劇団ひまわり)	国東物語 (鐵プロダクシ ョン、大分合同新聞 社)	Wの悲劇 (角川春樹事務所)					
台風クラブ (ディレクターズ カンパニー)	恋文 (松竹富士、ケイ エンタープライズ、 廣済堂映像)	花いちもんめ (東映)	それから (東映)	食卓のない家 (丸源)					
人間の約束 (全国朝日放送、 西友、キネマ東京)	海と毒薬 (「海と毒薬」製 作委員会)	ウホッホ探検隊 (ニュー・センチュ リー・プロデューサ ーズ、ディレクター ズ・カンパニー、日 本テレビ放送網)	落葉樹 (丸井公文社)	恋する女たち (東宝映画)					
SOS どちら地球 (共同映画全国系 列会議)	二十四の瞳 (松竹、電通、東 京放送、東北新社)	男はつらいよー知 床慕情ー (松竹映像)	ニホンザル物語 家族 (群像社)	BU・SU (東宝映画、日本テ レビ放送網)					

7. 文化庁こども向けテレビ用

年 度	交 付	
51	一休さん (東映動画)	まんが日本昔ばなし (グループ・タック)
52	あらいぐまラスカル (日本アニメーション)	シートン動物記「くまの子ジャッキー」 (日本アニメーション)
53	ベリーヌ物語 (日本アニメーション)	星の王子さま (ナック)
54	まんが赤い鳥のころ (ケイ・アンド・エス)	まんが日本昔ばなし (グループ・タック)
55	ニルスのふしぎな旅 (学習研究社)	まんが日本昔ばなし (グループ・タック、愛企画センター)
56	一休さん (東映動画)	家族ロビンソン漂流記 ふしぎな島のフ ローネ (日本アニメーション)
57	南の虹のルーシー (日本アニメーション)	まんがはじめて物語 (ダックスインターナショナル)
58	アルプス物語 わたしのアンネット (日本アニメーション)	キャプテン (エイケン)
59	ドラえもん (シンエイ動画)	牧場の少女カトリ (日本アニメーション)
60	まんがどうして物語 (ダックス・インターナショナル)	まんが日本昔ばなし (愛企画センター、グループ・タック)
61	おぼけのQ太郎 (シンエイ動画)	へーい!ブンブー (日本アニメーション)
62	ドラえもん (シンエイ動画)	愛の若草物語 (日本アニメーション)

優秀映画製作奨励金交付作品一覧

作 品		
サザエさん (エイケン)	母をたずねて三千里 (日本アニメーション)	まんが世界昔ばなし (ダックスインターナショナル、 ワールドテレビジョン)
サザエさん (エイケン)	まんが日本昔ばなし (グループ・タック)	冢なき子 (東京ムービー新社)
キャンディ・キャンディ (東映動画)	まんが日本昔ばなし (グループ・タック)	宝 島 (東京ムービー新社)
まんがこども文庫 (グループ・タック)	ベルサイユのばら (東京ムービー新社)	円卓の騎士物語 燃えろアーサ ー (東映動画)
サザエさん (エイケン)	トム・ソーヤの冒険 (日本アニメーション)	銀河鉄道999 (東映動画)
サザエさん (エイケン)	鉄腕アトム (手塚プロダクション)	まんが日本昔ばなし (愛企画センター、グループ・ タック)
サザエさん (エイケン)	まんが日本昔ばなし (愛企画センター、グループ ・タック)	アニメ野生のさけび (和光プロダクション)
まんが日本昔ばなし (愛企画センター、グループ ・タック)	ドラえもん (シンエイ動画)	子鹿物語 (講談社)
まんがどうして物語 (ダックスインターナシヨナ ル)	まんが日本昔ばなし (愛企画センター、グループ ・タック)	森のトントたち (瑞鷹エンタープライズ)
おねがい!サミアどん (東京ムービー新社)	六三四の剣 (エイケン)	へーい!ブンブー (日本アニメーション)
愛少女ポリアンナ物語 (日本アニメーション)	まんが日本昔ばなし (愛企画センター、グループ ・タック)	メイプルタウン物語 (東映動画)
まんが日本昔ばなし (愛企画センター、グループ・ タック)	ドリモグだァ!! (ジャパコンマート)	グリム名作劇場 (日本アニメーション)

8. 映画関係人

1. 映画に関する学科、学科目等を置いている大学

(1) 映画人養成のための学科を置いている大学

大学名	区分	学 科	コ ー ス
日本大学芸術学部		映 画 学 科	理論・評論、映像、脚本、監督、撮影・6コース
大阪芸術大学芸術学部		映 像 学 科	ドラマ、ドキュメンタリー、動画映像、像ディスプレイ、実験映像の6コース

(2) 映画に関する学科目等を置いている大学

大学名	区分	学 科 等	学 科 目
筑波大学芸術専門学群		デ ザ イ ン 専 攻	視覚伝達デザインコース
九州芸術工科大学芸術工学部		画 像 設 計 学 科	映像学基礎論、撮影計画・実習 等
成城大学文芸学部		芸 術 学 科	映画学、映画史、映画演習 等
早稲田大学文学部		文 学 科	映像論、映画史 等
共立女子大学文学部		芸 術 学 専 攻	劇芸術コース
東京造形大学造形学部		デ ザ イ ン 学 科	映像学、映画学、映画史、映画構成、映
九州産業大学芸術学部		写 真 学 科	画像研究、動画像演習 等

材養成機関

等	入 学 定 員	備 考
録音、演技の	80	学科設置 昭24.4
映像広告、映	80	学科設置 昭46.1

等	入 学 定 員	備 考
	(学群) 100	専攻設置 昭50 広告デザイン、イラストレーション、タイポグラフィ、映像(写真・映画・ビデオ)等の理論・研究、演習等を行う。
	40	学科設置 昭43.4 映像媒体(映画・写真・テレビ)を中心とし、歴史的・理論的研究、演習、制作実習等を行う。
	50	学科設置 昭51.2 美術・音楽・演劇と併せて映画などの理論、歴史等の科目を置いている。
	570	演劇を中心とし、関連して映画の理論、歴史等の科目を置いている。
	50	専攻設置 昭28.1 演劇などの舞台芸術を中心とし併せて映画などのドラマに関する科目(映画論、映画研究)を置いている。
画計画 等	200	学科設置 昭41.1 デザイン・美術と併せて映画の理論、実習等の科目を置いている。
	120	学科設置 昭41.4 写真を中心とし併せて映画、ビデオ等の理論、実習等の科目を置いている。

2. 映画人養成等のための専修学校、各種学校

学校名	区分	科	学 科 目
〈専修学校〉			
多摩芸術学園		映画学科	映画制作法、映画史、撮影基礎、ドラマ
日本映画学校		映像科	演出脚本、撮影照明、映像編集、音響オ 美術デザインの5コース
千代田工科芸術専門学校		映画芸術科	映画演出・撮影基礎、脚本論、映画演出・
東京工学院芸術専門学校		アニメーション・ 映画芸術科	映画総論、撮影技術、演出技法、映画制 応用実習等
日本工学院専門学校		映像科	映像総論、映像実習等
日本電子専門学校		映像クリエイティブ科 (63年度新設)	映像文化論、制作技法、基礎演習、制作
東放学園専門学校		放送芸術科 アニメーション科 (63年度新設)	映画概論、映像論等
東京デザイナー学院		アニメーション科	アニメーション原論、映像音楽論、シナ
東京写真専門学校		映像学科 映画芸術専攻 放送芸術専攻	映画概論、映画演出論、映画技術論、 シナリオ制作論等
大阪写真専門学校		放送・映画学科 写真学科・音楽芸術科	映画工学、映像論、映像史、実習等
日本写真専門学校		テレビ・映画学科	映像美学論、特殊撮影論、シナリオ制作

等	入学定員	修業年限	備 考
撮影技術等	30	3	学園(科)設置 昭51.4 (創立 昭29.4)
オーディオ、	180以内	3	学校(科)設置 昭61.4 (前身:横浜放送映画専門学校 昭50開校) 校長 今村昌平(監督)
撮影技法等	40	2	学校設置 昭55.4 (前身:千代田テレビ技術学校 昭32.5)
作基礎実習・	40	2	学校設置 昭58.4 (前身:総合学園東京工学院 昭34.4) 芸術関係学科設置 昭50.4
	40	2	学校設置 昭51.7 (前身:創美学園 昭22) 芸術専門課程設置 昭50
実習・演習等	100	2	学校設置 昭51 (前身:日本ラジオ技術学校 昭26)
	120 40	2 2	学校(科)設置 昭54 (前身:TBSコンピューター学院 昭44)
リオ創作論	360	2	学校設置 昭52 (創立 昭40) 学科設置 昭58
	(学科) 320	2	学校設置 昭52 (前身:東京写真専門学校 昭41) 学科設置 昭62
	(3科) 800	2	学校設置 昭52 (創立 昭47) 学科設置 昭49
論等	40	2	学校設置 昭51 (創立 昭31) 学科設置 昭48

学校名	区分	科	学 科 目
東京映像芸術学院 大学部、専門部	<各種学校>	映像クリエイター科 映像技術科 音響技術科 シナリオ専科 特撮技術科 特撮クリエイター科 特撮美術科 メカニックデザイン科 アニメーション専攻科 特殊メイク専攻科 ニューメディア専攻科	映像論、映像技術、劇映画等制作、録 実習・制作、特撮技術・実習、アニメ 技術・編集・制作、映画シナリオ等
にっかつ芸術学院		映像創作科 映像技術科 映像美術科	企画制作、演出、シナリオの3コース 撮影、録音、編集、記録の4コース デザイナー、スタイリスト、メイク、ア 4コース

等	入学定員	修業年限	備 考
音技術、録音 ーション撮影	(大)260 (専)120	(大)3 (専)2	学院創立 昭46 東京校、熊谷校、九州校
ニメーターの	200	2	学院創立 昭50 (前身：日活テレビ映画芸術学院) 学院長 遠藤周作(作家)

〔参考〕

専修学校と各種学校の比較

	専 修 学 校	各 種 学 校
授業時間	年間800時間以上(夜間は450時間以上)。	年間680時間以上。
教育目的	学校教育法で「職業もしくは実際生活に必要な能力を育成する」と定められている。	特に定められていない。
教員資格	文部大臣の定める資格を必要とする。	特に資格を必要としない。
入学資格	学校教育法によって定められている。	学校がそれぞれ自由に入学資格を定める。
校地校舎	それぞれの学校で所有していなくてはならない。	所有していなくてもよい。

9. 主な国際映画祭にお

年	アカデミー賞 (外国映画部門) コンクール	インド 国際映画祭	エディンバラ 国際映画祭	カルロヴィ・ヴァリ 国際映画祭	カンヌ 国際映画祭
1951	羅生門(大映) 〈外国劇映画賞〉				
1952					
1953					くじら (千代紙映画) 〈2等賞〉
1954	地獄門(大映) 〈外国劇映画賞〉			原爆の子 (近代映協) 〈平和賞〉 太陽のない町 (新星映画) 〈名誉賞〉 1952メーデ (メーデ記録映画 製作委) 〈記録映画賞〉	地獄門(大映) 〈グランプリ〉
1955	宮本武蔵(東宝) 〈外国劇映画賞〉		地獄門(大映) 〈セルズニック・ ゴールデン・ ローレル賞〉 雨月物語(大映) 〈セルズニック・ ゴールデン・ ローレル賞〉 原爆の子 (近代映協) 〈名誉賞〉 トランペット少年 (東映) 〈優秀賞〉		
1956				真昼の暗黒 (現代ぷろ) 〈人類の進歩賞〉	

ける邦画作品賞受賞一覧

(映連資料より)

ベネチア 国際映画祭	ベルリン 国際映画祭	モスクワ 国際映画祭	リオ・デ・ジ ヤネイロ国際 長編映画祭	アジア太平洋 映画祭	モントリオール 国際映画祭
羅生門(大映) 〈グランプリ〉					
西鶴一代女 (新東宝) 〈国際賞〉					
雨月物語(大映) 〈銀獅子賞〉	煙突の見える場 所(新東宝) 〈国際平和賞〉				
七人の侍(東宝) 〈銀獅子賞〉 山椒太夫(大映) 〈銀獅子賞〉				金色夜叉(大映) 〈劇映画 最高作品賞〉 佐久間ダム (岩波映画) 〈劇映画 最高作品賞〉 セロひきのゴー ジュ(三井プロ) 〈特別賞〉 皇太子さまの外 遊日記 (日映新社) 〈特別賞〉 蜜蜂サーヤの冒 険(T.C.J.) 〈特別賞〉	
				春琴物語(大映) 〈劇映画 最高作品賞〉 ビール誕生 (東京シネマ) 〈教育映画賞〉	
ビルマの堅琴 (日活) 〈サン・ ジョルジョ賞〉	カラコルム (日映新社) 〈金熊賞〉			ある日の草むら (東映) 〈教育映画賞〉	

年	アカデミー賞 (外国映画部門) コンクール	インド 国際映画祭	エディンバラ 国際映画祭	カルロヴィ・ヴァリ 国際映画祭	カンヌ 国際映画祭
1957					白い山脈(大映) 〈ロマンチック・ ドキュメンタリ ー賞〉
1958				異母兄弟 (独立映画) 〈グランプリ〉	
1959					白鷺(大映) 〈審査員特別賞〉
1960					鍵(大映) 〈審査員特別賞〉
1961					おとうと(大映) 〈フランス映画技術 委員会特別賞〉
1962					
1963					切腹(松竹) 〈審査員特別賞〉

ベネチア 国際映画祭	ベルリン 国際映画祭	モスクワ 国際映画祭	リオ・デ・ジ ャネイロ国際 長編映画祭	アジア太平洋 映画祭	モントリオール 国際映画祭
				朱雀門(大映) 〈劇映画 最高作品賞〉 黒部峡谷 (日映新社) 〈非劇映画 最高作品賞〉	
無法松の一生 (東宝) 〈グランプリ〉				北海道の大自然 (東映) 〈非劇映画 最高作品賞〉 うなぎとり (近代映協) 〈特別賞〉	
	隠し砦の三悪人 (東宝) 〈国際映画批評 家協会賞〉 裸の太陽(東映) 〈最優秀青少年 映画賞〉	千羽鶴 (共同映画) 〈国際平和委員 会特別賞〉			
人間の条件 (にんじんくらぶ ・松竹) 〈サン・ジョル ジョ賞 国際映画記者 連盟賞〉					
		裸の島 (近代映協) 〈グランプリ〉		女は夜化粧する (大映) 〈劇映画 最高作品賞〉 新昆虫記一蜂の 生活(東映) 〈企画賞〉	
恋や恋なすな恋 (東映) 〈特別賞〉				はだかっ子 (東映) 〈教育文化賞〉 巨船ネズサブリ ン(岩波映画) 〈企画賞〉	
	武士道残酷物語 (東映) 〈グランプリ〉	非行少女(日活) 〈金賞〉 その夜は忘れな い(大映) 〈国際平和委員 会特別賞〉		古都(松竹) 〈劇映画 最高作品賞〉 森林(東映) 〈非劇映画 最高作品賞〉	

年	アカデミー賞 (外国映画部門) コンクール	インド 国際映画祭	エディンバラ 国際映画祭	カルロヴィ・ヴァリ 国際映画祭	カンヌ 国際映画祭
1964			ドキュメント路上 (東洋シネマ) 〈優秀賞状〉		砂の女 (勅使河原プロ) 〈審査員特別賞〉 挑戦(電通映画) 〈短編映画部門 グランプリ〉
1965		われ一粒の麦な れど(東宝) 〈特別賞〉			怪談(文芸プロ・ にんじん) 〈審査員特別賞〉 東京オリンピック (オリンピック映画 協会) 〈国際映画批評家 協会賞〉
1966					
1967					
1969					
1971					

ベネチア 国際映画祭	ベルリン 国際映画祭	モスクワ 国際映画祭	リオ・デ・ジ ャネイロ国際 長編映画祭	アジア太平洋 映画祭	モントリオール 国際映画祭
		芽をふく子ども (近代映協) 〈審査員特別賞〉		東海道新幹線 (新理研映画) 〈企画賞〉	
	彼女と彼 (岩波映画) 〈最優秀青少年 映画賞〉 ある機関士助手 (岩波映画) 〈審査員特別賞〉				ミクロの世界 (東京シネマ) 〈名誉賞〉 マリン・スノー (東京シネマ) 〈名誉賞〉
赤ひげ(東宝・ 黒沢プロ) 〈サン・ジュール ジョ賞〉		手をつなぐ子ら (昭和映画) 〈審査員特別賞〉 赤ひげ(東宝・ 黒沢プロ) 〈ソビエト映 画労働者 連盟賞〉 東京オリンピッ ク(オリンピッ ク映画協会) 〈ソビエトス ポーツ連盟賞〉 美しき国土 (東京シネマ) 〈インツ ー リスト賞〉	姿三四郎(東宝 黒沢プロ) 〈審査員特別賞 外〉	君も出世できる (東宝) 〈特別賞〉	
				妻の日の愛のか たみに(大映) 〈特別賞〉	
上意討ち (東宝) 〈国際映画 批評家協会賞〉		白い巨塔 (大映) 〈銀賞〉 小さい逃亡者 (大映) 〈児童映画部門 金賞外〉		なつかしい風来 坊(松竹) 〈特別賞〉 ライチョウ (日本シネセル) 〈非劇映画 最高作品賞〉 展覧会の絵 (虫プロ) 〈特別賞〉	
		長靴をはいた猫 (東映) 〈ソビエト 美術家同盟賞〉			
		裸の十九歳 (近代映協) 〈金賞〉			

年	アカデミー賞 (外国映画部門) コンクール	インド 国際映画祭	エディンバラ 国際映画祭	カルロヴィ・ヴァリ 国際映画祭	カンヌ 国際映画祭
1972				軍旗はためく下に (東宝) 〈ばら賞〉	
1974				戦争と人間 (日活) 〈ばら賞〉	
1975					
1977		化石(俳優座映 画放送) 〈金賞〉			
1978					
1980					影武者 (黒澤プロ外) 〈グランプリ〉
1981					
1983					檜山節考 (東映) 〈グランプリ〉
1984					

ベネチア 国際映画祭	ベネチア 国際映画祭	モスクワ 国際映画祭	リオ・デ・ジ ャネイロ国際 長編映画祭	アジア太平洋 映画祭	モントリオール 国際映画祭
	サンダカン八番 娼館(東宝) 〈金熊賞〉	砂の器(松竹外) 〈ソ連作曲家 同盟賞〉			
		白鳥の王子 (東映) 〈ソ連映画人 同盟賞〉		先生のつうしん ぼ(日活) 〈最優秀作品賞〉	
				走れトマト (日活) 〈児童映画賞〉 四鶴一代女 (日活) 〈回顧映画賞〉	
				二百三高地 (東映) 〈最優秀映画賞〉 男はつらいよ (松竹) 〈優秀喜劇賞〉	
	チゴイネルワイ ゼン(シネマブ ラセット) 〈審査員特別賞〉	泥の河 (木村プロ) 〈銀賞〉			
		イソップ物語 (こぶしプロ) 〈ピオニール賞〉		細雪(東宝) 〈最優秀作品賞〉	未完の対局 (東光徳間) 〈グランプリ〉
	ニッポン古屋敷 村(小川プロ) 〈国際映画 批評家賞〉			序の舞(東映) 〈最優秀作品賞〉 男はつらいよ (松竹) 〈審査員特別賞 喜劇〉 せんせい (映像企画) 〈審査員特別賞 平賞〉 おはん(東宝) 〈審査員特別賞〉	

年	アカデミー賞 (外国映画部門) コンクール	インド 国際映画祭	エディンバラ 国際映画祭	カルロヴィ・ヴァリ 国際映画祭	カンヌ 国際映画祭
1986					
1987					親鸞・白い道(キ ネマ東京、松竹、 日映) 〈審査員賞〉

ベネチア 国際映画祭	ベルリン 国際映画祭	モスクワ 国際映画祭	リオ・デ・ジ ャネイロ国際 長編映画祭	アジア太平洋 映 画 祭	モントリオール 国際映画祭
	鐘の権三(松竹 表現社) 〈銀 賞〉 伽倻子のために (劇団ひまわり) 〈アートシアター 協会賞〉 ボクちゃんの牧 場 (こぶしプロ) 〈国際青少年 映画外〉				それから(セン トラルアーツ) 〈特別優秀 作品賞〉

10. 世界の主な映画祭

映画祭名	国名	創設年	開催月	内容
エーテボソ映画祭	スウェーデン	1978	1月	スカンジナビア最大の映画祭、様々なジャンルの作品を集めて一般公開
モスクワ国際映画祭	ソ連	1959	隔年7月	映画芸術におけるヒューマニズムと諸国民の友好のために
東京国際映画祭	日本	1985	隔年9月	新人部門を含むコンクール形式でグランプリと新人賞を選出
香港国際映画祭	香港	1977	4月	各国の新作映画の紹介を目的とするアジア屈指の映画祭
インド国際映画祭	インド	1952	1月	コンペティション、見本市等4部門からなる伝統的な映画祭
シドニー映画祭	オーストラリア	1954	6月	若い監督の作品、新しい様式をもった映画を上映
ベルリン国際映画祭	西ドイツ	1951	2月	社会派映画祭、'70年より新人・独立プロを支持するフォーラム部門設置
ベネチア国際映画祭	イタリア	1932	8月	芸術至上主義的な色彩が濃く作家の映画を重視
ザグレブ国際アニメーション映画祭	ユーゴスラビア	1972	隔年6月	芸術的価値の高いアニメが集まる
ペサロ国際映画祭	イタリア	1965	6月	新人監督のためのコンクール形式の映画祭
トロント国際映画祭	カナダ	1976	9月	各国の新作・回顧展、カナダ映画の新作などのプログラム
サン・フランシスコ国際映画祭	アメリカ	1954	4月	商業映画以外の作品に積極的、短編映画やTV番組のコンペ
ハワイ国際映画祭	アメリカ	1981	11~12月	アジア、太平洋沿岸諸国の若い作家の映画を集め一般公開
ニューヨーク映画祭	アメリカ	1963	9月	その年の世界の話作が上映される
USフィルムフェスティバル	アメリカ	1985	1月	オフ・ハリウッドと呼ばれるインディペンデント・シネマを紹介
ロンドン国際映画祭	イギリス	1957	11月	プログラミングに定評があり、ベルトリッチやワイダを紹介した実績がある
サン・セバスチャン国際映画祭	スペイン	1953	9月	新人監督の発見に力を入れる、スペインをリードする映画祭
ロカルノ国際映画祭	スイス	1948	8月	小規模だが古い伝統をもつ映画祭
カンヌ国際映画祭	フランス	1946	5月	≒批評家・監督週間、では新しい才能を発掘
トリノ国際映画祭	イタリア	1983	10月	ヤングシネマだけを対象、世界中の8、16、35ミリやVTRを上映